

12月12日は、日本漢字能力検定協会が定めた「漢字の日」です。「漢字に対する関心を深め、日本語の中核となる漢字が持つ奥深い意義を学ぶ機会を創出し、同時に日本文化への認識を深める日」と位置づけ、毎年「いい字」を少なくとも「一字」は覚えてほしいという願いを込めて、「いい」=1、「字」=2、「一」=1、「字」=2と語呂合わせでこの日にしたようです。

この日に合わせて、協会は1995（平成7）年から毎年、「今年の漢字」を決めています。過去17年間に選ばれたのは、2011（平成23）年「絆」、10（22）年「暑」、09（21）年「新」、08（20）年「変」、07（19）年「偽」、06（18）年「命」、05（17）年「愛」、04（16）年「災」、03（15）年「虎」、02（14）年「帰」、01（13）年「戦」、00（12）年「金」、99（11）年「末」、98（10）年「毒」、97（9）年「倒」、96（8）年「食」、95（7）年「震」でした。

たった1字でその年の世相などの特徴や印象を表すことは難しいですが、1年を振り返り、1字を考えるのは、意義のあることです。マイナスイメージの漢字が多いようですが、「絆」や「愛」のような、響きのよい言葉がもっと多く選ばれてほしいものです。

子どもたちに今年の大きな出来事を挙げさせ、それにちなんだ1字をB5判用紙の上半分に大きく書き、下半分には選んだ理由を20字程度で書かせます。「今年の漢字」が発表されたら、それが掲載されている新聞記事を使って、自分たちが選んだ漢字と比べてみます。11月25日頃までには、1字を選ばせることを指示しておきたいです。合わせて、自分にとっての1年を表す1字も決めさせるとよいでしょう。

（鈴木伸男 全国新聞教育研究協議会顧問）